

山と電気の風景論 ③⑥

皇海山と日光白根山～群馬・栃木県境：奥の院&原始的山岳美&大水源～

セリングビジョン㈱ 代表取締役 岡部 秀也

春の奥日光残雪トレッキング

本号は、関東の尾瀬に近く、日光中禅寺湖を囲み、隣接する山脈で並立する両座を特集したい。

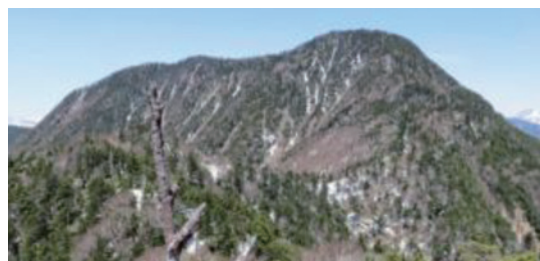
5月下旬に登山をしたが、まだ残雪があり登山開始には少し早かったが一泊二日で群馬側の沼田城跡(真田城主で有名)や榛名神社を参拝しつつトレッキングした。

2日目の日光白根山は雪が残りアイゼンも用意したが、そこまでは必要がなく、ツボ足歩行で雪道を踏み抜きつつ、尻もちをつきながら登頂を果たした。初日は沼田でレンタカーを借り、皇海山は陽射しを受け急登歩行で体力を消耗したが、由緒ある旅館に泊まり地元料理や風情を味わった。

沼田駅から登山口駐車場まで、皇海山は皇海橋までは整備され、そこから狭く曲がった山道のドライブでスリルがあり2時間、翌日は沼田から日光白根



天空展望台から日光白根山



皇海山を望む

山へは丸沼高原スキー場まで良好に整備され1時間半のドライブであった。

皇海山と日光白根山の特筆

◆皇海山

「すかいさん」と地元では親しまれているが、登山日には数人しか会わなかった。一般には知られていない静かな山である。登山口まで車で、崖道の落石を注意しつつ時にゴロゴロ大石が悪路上にあるほど原始的な自然林道だ。運転に神経を使わないと「道路の石ころに当たり、パンクする」(地元の登山者)から神経を使った。

赤城山と男体山との間の牛の背のようなドッシリしたコウガイ(斧:細い髪結い道具)の山容に見え、細い道を長く歩む笏(しゃく:神職が神事の際に持つ細長板)を感じる。

コウガイ→皇海(スカイ)となったのか、かつて奥深い信仰の山岳の神秘的な奥道だったようだ。

頂上は木々に囲まれた狭い平地となり見晴らしは利きにくい。途中で展望を楽しむしかないが木立があり残雪と格闘してまずは鋸山を展望しつつ進んだ。百名山を著した深田久弥が、皇海山を原始的自然美の「埋もれた山」と表したが、いまもその雰囲気は漂っている。

◆日光白根山

日光群山の主峰であり関東以北での最高峰。火山噴火でのせき止め湖は水力ダムの適地である。

中禅寺湖そばの男体山の奥の院とも言われる。奥山だけに遠景しにくく地元の生活に密着していないため、男体山と比べ、標高は高い割にあまり注目されてこなかったと思う。

しかし山岳登山をして遠くから離れて見るとその威風堂々の山体がわかる。燧ヶ岳、男体山、平ヶ岳から見た日光白根山は、飛び抜けて高く立派な峰である。

頂上は火山爆発でできた大小の噴石でこぼこの砂礫道をたどり、狭い岩稜には白根権現を祀る小祀があった。眼下には五色沼が眺望でき、多くの噴火口が見えた。今後も噴火が繰り返されるだろうか。白根山というと、草津白根山は噴火したが、日光白

根山は今のところ噴煙が見えない。残雪のなか二荒山神社に安全祈願して登頂した。

両座の登頂記録と感想

◆皇海山(平成26年5月24日)

標高2144m, 往復6km, 4時間15分(休憩含む), 標高差790m。

ルート:皇海橋(不動沢)コース。沼田から吹割の滝経由で林道へ。

【行程】

沼田駅からレンタカーで55分かけて皇海山への道路入口、そこから狭く落石の多いでこぼこの栗川原林道(崖道も)を1時間5分。結局、沼田～登山口駐車場まで2時間。崖道のドライブ中、猿二匹、鹿とタヌキが時折、悪路に佇んで、車の前を山側から谷川方面に走り抜けた。時速10kmで切石によるパンクにも注意した。

11:30 皇海橋登山口駐車場。登山届け、おにぎり軽食。

11:45 皇海橋登山出発。沢筋の渡渉が続き水は豊富。

12:10 二俣。不動沢コル近くでは滑りやすい急登が続く。

12:58~13:10 不動沢コル(出会った3人の登山グループは仲間の体調悪化でリターン)。頂上に向け、ロープがあり、三点支持で慎重に歩む。

14:10~14:30 皇海山頂上。

山頂は狭いが場所を見つけると展望は良い、男体山、尾瀬方面が見える。日光白根山、燧ヶ岳、至仏山の清々しい山容も眺望できた。

16:00 皇海橋着。

<登山エピソード>

・風が吹かず、太陽の日差しが強いなかを残雪の急登もあり体力を消耗した。

・尻餅三回。残雪は気を付けても滑る。

・帰りに河道を左折し山側に回り道するリボンを見落とし、河道のダムまで行き引き返した。15分間のロス。

帰路は、再びの悪路で車酔いをしつつも、沼田に戻り、文豪の若山牧水、柴田錬三郎の常宿だった古いビジネスホテル青池泊。宿の主に沼田・尾瀬の山岳や真田など城主の歴史をうかがった。

◆日光白根山(平成26年5月25日)

標高2578m, 往復7.4km, 4時間48分(休憩含



皇海山の残雪・溪流渡渉



不動沢コルから鋸山



皇海山頂上：渡良瀬川水源の表示

む), 標高差603m。

ルート:丸沼ロープウェイコース。噴火警戒レベル1。

【行程】

青池では群馬名産の野菜、山菜をいただき朝食をたっぷりとり。沼田城の公園散策。真田、土岐など大名が転々とした史跡を辿った。また地元で有名な榛名山神社参拝(大国主命)。その後、1時間のドライブで9時半丸沼スキー場着。丸沼高原(標高1400m)。ロープウェイ6人乗りで距離2500m、高低差600mを15分で頂上駅(標高2000m)。

10:15 山頂駅発。二荒山神社(男体山、日光白根山の祭神も大国主命)の鳥居をくぐる。

10:36 大日如来分岐。残雪はツボ足でピンクリボンを頼りに歩む。

七色平分岐。ジグザグ急登を続け、森林限界を超えて山頂が展望できた。山頂直前に小さい祠。

12:20~12:40 頂上(火山の岩礫)。近くの五色沼、弥陀ヶ池や、皇海山、男体山見つづ菅沼、丸沼、大尻沼などの火山せき止め湖方面を望む。山仲間らと一期一会の



残雪の二荒山神社鳥居をくぐり出発

写真撮影。

帰路はスノーシュー自然散策コースを辿った。

15:03 山頂駅着。

<登山とその後のエピソード>

- ・残雪が予想以上に残っていた。3回の足の踏み抜き。2回転倒。
- ・五人の団体は、途中の雪山歩行に怖じ気づいたのか無理せず引き返した。
- ・途中1.5キロのスノーシュー自然散策コース通過。二人連れの登山者がピンクリボンを見つけられず引き返してきた。
- ・山頂駅に戻り、天空の足湯から眺望。晴れているが霞んできた。ここからの眺めは雄大。登頂を果たし笑顔の男組とカップルから頼まれ記念撮影した。(日光白根山頂上で左奥・男体山を展望)
- ・アイゼン重いしアイスパーンがなく不要だった。
- ・ロープウェイのセンターで、地元の、かりんとうラスク・地産の石鮎が人気。



日光白根山頂上で左奥・男体山を展望



積雪で埋もれた登山道をつボ足で

- ・帰りに白沢高原望郷の湯に入る。蕎麦セット込み温泉千円。スパと食事で残雪登山による「低体温症」から回復。温泉から隆起した段丘河川や山脈をじっくり眺め地学の勉強。当地は、大昔は湖で次は海となり、そして今の盆地にと変貌。噴火活動、地殻変動が繰り返されたゆえんとうかがった。

利根川・鬼怒川水系の大水力・都心への大バッテリー源に

東京電力では内陸の山に囲まれた群馬県には42か所291万kW(容量:原子力3基分の容量)、栃木県には23か所220万kW(原子力2基分)の水力発電所が、再生可能エネルギーとして稼働している。

両座は、群馬側は利根川水系へ、栃木県側は鬼怒川水系への水源となっており、山岳での雪解け水や豪雪がダムに注ぎ貴重な電源となっている。都心に向けての貴重な電源であり、特に揚水は巨大なバッテリーの役割を演じ下ダムから上ダムに水を上げ、ピーク電力需要が発生する時に上ダムから貯水を落させ発電する。

群馬県方面では、流れ込み式では丸沼発電所(4300kW)、一ノ瀬発電所(10700kW)、白根発電所(10300kW)、岩室発電所(19600kW)、そして揚水では玉原発電所(120万kW)が稼働している。栃木県方面では渡良瀬川水源等として、日光中禅寺湖方面の水力発電所や揚水の今市水力発電所(105万kW)まで部分的につながっている。日本百名山の両座は、尾瀬の燧ヶ岳・至仏山、日光の男体山からの水源と合わせて利根川水系、鬼怒川水系の水力発電所を形成している。

電力システム改革で発電所、変電所・送電設備、消費地までの一貫体制が崩れ、自然災害頻発による電力の安定供給が脅かされる中、改めて大水力電源地帯から都心への電力供給システム化、自由化後の重い課題を考えさせられた。